羽越水害 － 昭和42年8.28豪雨

羽越水害の概要

昭和42（1967）年8月28日から29日にかけて、新潟県下越地方から山形県南西部は記録的な集中豪雨に見舞われました。

総降水量の最大値は新潟県黒川村（現胎内市）の胎内第1ダム観測地点で748ミリを記録し、各地の山間部や渓谷で山肌が崩れ落ち、山形県小国町や新潟県関川村、黒川村では土石流や鉄砲水、河川の氾濫によって多くの死者・行方不明者が出る大災害となりました。この豪雨は、山形・新潟両県の2市6町5村（現山形県小国町、新潟県関川村・胎内市・新発田市・村上市）に大きな被害を与えました。

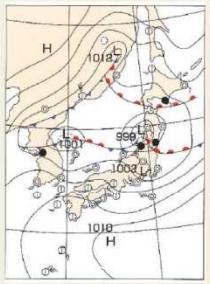
気象概況

この年は、8月下旬になっても太平洋高気圧の勢力が依然として強い夏でした。8月26日、沿海州から冷たい高気圧が南下し、太平洋高気圧との間に秋雨前線が形成されました。26日から27日にかけて、この前線上を低気圧が通って三陸沖にぬけたのですが、このとき新潟県中部にかなりの雨が降り、小さな被害もありました。前線はこのあとも残り、28日午前3時に日本海西部に1002ミリバールの低気圧が現れて東へ進み、発達しながら午後9時に酒田沖に達し、29日午前3時に三陸沖へぬけました。この低気圧の影響で、28日の早朝から新潟県北部を中心として強い雨が断続し、29日午後、前線の南下によってようやく小降りとなりました。

この前年（昭和41年）7月にも加治川が決壊する豪雨災害がありましたが、そのときとくらべて降雨強度ははるかに強く、中小河川に沿った山腹が各所で崩壊し、土石流となって山間部の集落を襲ったのです。

降雨状況

新潟県北部から山形県南西部に大雨が降り、降雨の中心域は、胎内川・荒川の上流・中流域でした。中心域では総雨量は700ミリを超えており、400ミリ以上の雨域は東西45キロメートル、南北55キロメートルほど、荒川水系の全域は総降水量等線400ミリ、28日降水量等線300ミリの線内にほぼ入っていました。雨は28日の明け方から29日の午前中にかけて、約30時間降り、26日9時から30日9時までの総雨量の大部分はこのときに降りました。強雨の集中、規模において記録的であり、一日雨量または時間雨量で記録を更新したところが多かったのです。



▲昭和42年(1967年)8月28日9時の天気図

▲羽越水害時総雨量分布図

出典:温故知新羽越水害から40年
参考:1968年版気象年鑑(日本気象協会)

被害状況

▲羽越水害被災区域
出典:1968年版気象年鑑

被害は、新潟県、山形県に加えて福島県にも及び、3県あわせて、死者83名・行方不明55名・負傷155名・全壊159棟・半壊408棟・床上浸水26,641棟・床下浸水39,542棟・流埋水田3,411ha・流埋畑755ha・冠水水田40,516ha・山（がけ）くずれ398カ所など、多大なものとなりました。

出典:昭和43年版消防白書（消防庁）
（被害状況は資料ごとに相違があるため、合計数等一致しない場合があります）

▲豪雨より一夜明けた下関の様子
出典:関川村ホームページ

▲右岸がもぎとられた小国大橋
(8月29日午前4時40分頃)
出典:小国町ホームページ

▲災害は培ってきた生活を押しつぶす
(旧黒川村下荒沢)
出典:飯豊山系砂防事務所ホームページ

道端に残された流木など（小国町）

残った土砂を重機で除去（関川村）

土砂で一階部分はほぼ埋まる（胎内市）